

地域と学校の連携・協働

学校の抱える問題の複雑化・多様化
少子高齢化，地域の教育力の低下，
福祉的課題の増加（発達障害や貧困）
社会全体で子供の育ちを支える必要

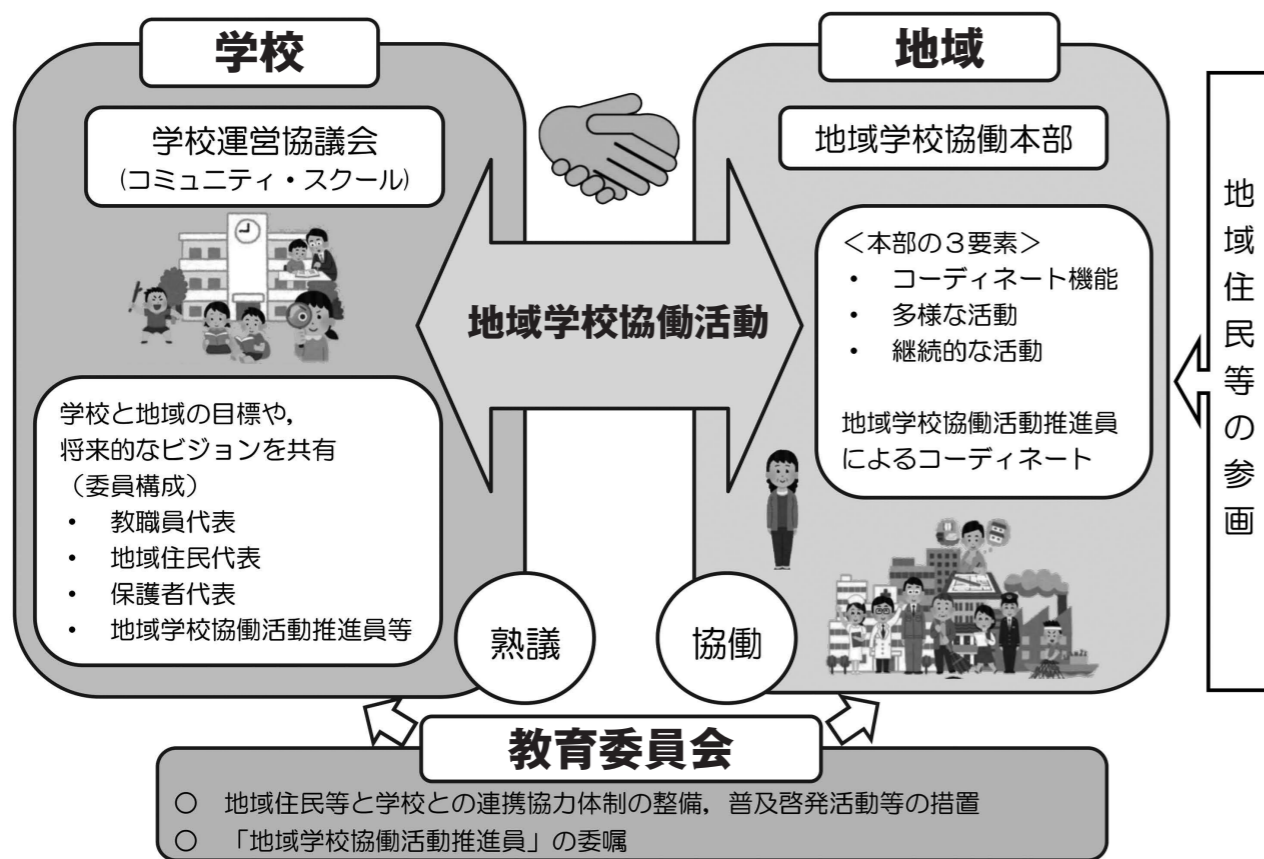
予測困難な未来の到来
グローバル化，人工知能の進化等
学校で教えていることが将来の社会
で通用しないのではとの危惧

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を共有し，
組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくことが重要

1 「社会に開かれた教育課程」の実現

これからの時代に求められる資質・能力を子供たち一人一人に着実に育んでいくために，学校は家庭・地域と目標を共有し，「地域学校協働活動等の多様な教育活動が，学校の教育目標の実現に対してどのような役割を果たせるのか」という視点をもつことが重要です。

「社会に開かれた教育課程」を実現するため，学校運営協議会や地域学校協働本部等の仕組みを活用し，学校・家庭・地域が連携・協働して，子供たちの学びの充実を図っていくことが必要です。



2 連携・協働の実践例

北名古屋市立五条小学校地域学校協働本部（平成30年度地域学校協働活動文部科学大臣表彰受賞）

地域学校協働活動としての取組

- 学校支援ボランティア（「学校サポーター」）の設置
（学習サポーター）
実習補助や校外学習の付添い等
（トショボン）
図書館整備，学級文庫の選定補助
（ビケット）
朝の定期的な読み聞かせ
- 「スクールガード」による児童登下校時の安全指導や行事における校内外安全見回り活動
- 「五条スポーツクラブ」による体育的行事の支援
- 放課後子ども教室と放課後児童クラブとの連携

実施方法

- 地域学校協働活動推進員がコーディネーター役を担い，学校の教育活動との連携を行っている。

地域学校協働活動を実施しての効果・成果

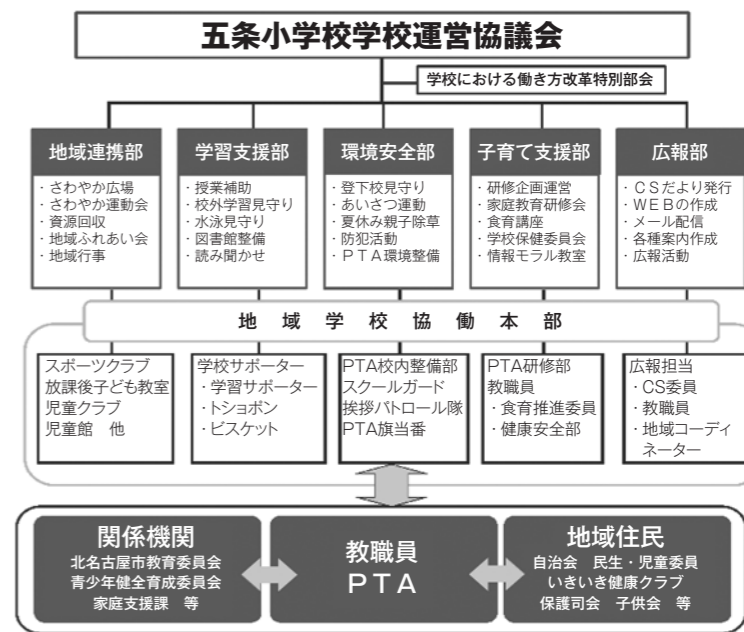
- 企画・運営，連絡役を地域学校協働活動推進員が担当することで，教員の負担軽減となっている。
- 地域担当のコーディネーターを設置したことで，多様な地域人材の活用が可能となっている。
- 「学校サポーター」や「スクールガード」の登録も増え，活動の幅も広がっている。
- 日常的にボランティアが来校することで，教育活動の現状や学校運営について理解が深まり，保護者や地域からの信頼が高まっている。

3 地域学校協働活動リーフレット

教員をはじめ多くの方々に，地域学校協働活動の推進力となっていただくことを願い，「地域学校協働活動リーフレット」を作成しました。このリーフレットは，地域学校協働活動の基礎的な内容を理解できる資料ですので，地域学校協働活動の推進に向けた研修会の資料とするなど，幅広く御活用ください。このリーフレットは，愛知県教育委員会生涯学習課のWebページ（<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/syogaigakushu/>）からもダウンロードができます。

4 今後に向けて

学校・教職員は，地域の人的・物的資源を活用したり，放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりして，地域社会と積極的につながりをもつことが重要です。そのために，身近なPTA経験者や退職教職員，自治会関係者，社会教育関係者等との連携が有効です。



【「トショボン」による環境整備】

